

ビワ生育情報

千葉県
平成25年3月号

平成25年2月の気象

平成25年2月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温は第1半旬を除く5半旬で平年を下回った。第1半旬では10.1℃、第5半旬では3.8℃を記録し、寒暖の差が激しい月であった。月平均気温は5.7℃で、平年より0.6℃低く、前年より0.5℃高かった。

氷点下日数は第2～第6半旬でみられた。月合計は11日で、平年より2日多く、前年より2日少なかった。

最低極温は第3～第6半旬で平年を下回った。2月21日には、暖地園芸研究所で-2.7℃を記録し、今冬一番の寒さであった。幼果が寒害を受ける-3℃以下を記録した日数は2日あったが、いずれも-3℃を大きく下回る気温ではなかった。

降水量は第1～4半旬で平年を上回ったが、第5半旬では降雨がなかった。月合計は147mmで平年より55mm(60%)多く、前年より14mm(9%)少なかった。

日照時間は第1～4半旬で平年を下回った。月合計は133時間で、平年より18時間(12%)少なく、前年より11時間(9%)多かった。

表1 平成25年2月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	10.1	5.2	3.8	0	2.1	4	0.7	-1.7	-4.1
2	5.0	6.4	6.7	3	1.8	2	-1.0	-1.3	-1.4
3	5.3	6.5	5.2	1	1.8	2	-2.5	-1.5	-1.8
4	4.3	6.2	3.1	2	1.6	4	-1.5	-1.1	-2.5
5	3.8	6.9	8.1	4	1.2	1	-2.7	-0.4	-0.3
6	6.2	7.1	4.0	1	0.8	0	-1.9	0.4	0.5
平均/計/最低値	5.7	6.3	5.2	11	9.2	13	-2.7	-3.2*	-4.1

※：過去39年間の最低極温の平均

表1 (つづき)

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	39	25	0	19	29	27
2	15	11	34	18	28	16
3	22	18	7	21	27	19
4	56	8	4	22	26	36
5	0	11	105	37	26	21
6	16	20	12	17	16	5
合計	147	92	161	133	151	122

4月の作業(果実の発育は次ページ)

4月になると平均気温が一段と高くなって枝葉・根ともに伸長が盛んな時期になり、果実の肥大も急速に進む。3月に続き、摘果・袋掛けが重要な作業になる。

摘果・袋掛け

寒害を受けやすい園では、幼果の生死の判別がしやすくなったところから摘果を始める。果形が細長く、果実肥大が均一でなく、果皮に張りが無いものは被害果の可能性が高い。被害果の発生が多い園では、樹冠の外側の幼果は避け、被害が比較的少ない樹冠の内側の幼果を多く残すようにする。

がんしゅ病の予防

袋掛けが終了した後、収穫が始まるまでに千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って銅剤を予防散布する。幹や枝に薬液が十分にかかるようにする。

除 草

春草が繁茂する時期になるので、収穫が始まる前に除草を済ませる。草生栽培園では、有機物を補給する意味で草を刈り取って樹冠の回りに敷くとよいが、労力の足りない場合は除草剤を利用する。

樹及び花房の発育

ビワの開花期は表2に示した。暖地園芸研究所の開花始期（1花房内の蕾の10%が開花）は、「楠」が11月23日で、平年より14日、前年より17日遅かった。「大房」は12月14日で、平年より19日、前年より25日遅かった。「田中」は11月23日で、平年より10日、前年より12日遅かった。

開花盛期（1花房内の蕾の50%が開花）は、「楠」が12月5日で、平年より6日、前年より19日遅かった。「大房」は12月30日で、平年より8日、前年より23日遅かった。「田中」は12月7日で、平年より1日早く、前年より16日遅かった。

開花終期（1花房内の蕾の90%が開花）は、「楠」は12月17日で、平年より13日早く、前年より19日遅かった。「大房」は2月21日で、平年より21日、前年より51日遅かった。「田中」は12月17日で、平年より28日早く、前年より13日遅かった。

本年は、残暑が長引いた影響で花房の発現が遅く、特に「大房」は開花の進みが遅かった。「楠」及び「田中」は開花始期は遅れたが、開花期間は短く、平年より早く開花が終わった。

表2 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11.23	11.9	11.6	12.5	11.29	11.16	12.17	12.30	11.28
大 房	12.14	11.25	11.19	12.30	12.22	12.7	2.21	1.31	1.1
田 中	11.23	11.13	11.11	12.7	12.8	11.21	12.17	1.14	12.4

平年：1982年～2011年の30年間の平均

3月4日時点のビワ幼果の生存率は表3に示した。樹冠外側の生存率は「楠」が70%、「田中」が87%であり、「楠」は平年よりやや高かったが、前年より低く、「田中」はほぼ平年並みで、前年より高かった。樹冠内側の生存率は「楠」が96%、「田中」が97%であり、2品種共、平年及び前年並みだった。樹内外の平均生存率は「楠」が82%、「田中」が92%であり、「楠」は平年よりやや高かったが、前年よりやや低く、「田中」は平年並みで前年より高かった。「大房」は開花の進みが遅く、幼果の発育も遅れているため、調査が出来なかった。

暖地園芸研究所では、2月28日までに最低気温 -3°C 以下を記録した日が2日あったが、開花盛期が「楠」は平年より遅く、「田中」は平年並みで、2品種共に幼果の生育が遅れているため、寒害を被った幼果は少なかった。また、開花の進みが遅かった「大房」も同様に被害が少ないと予想される。

花房内の幼果数はやや多く、萌芽の展葉は遅れ気味である。本年の果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市他県南地域で平年より少ないが、今後の発生予察情報を参考にする。また、カメムシの発生の多い園では、4月以降ビワ園への飛来に注意を要する。

表3 ビワ幼果の生存率（暖地園芸研究所）

品 種	樹冠の外側(%)			樹冠の内側(%)			内外の平均(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	70	64	82	96	92	92	82	77	87
大 房	—	81	48	—	94	90	—	87	66
田 中	87	83	67	97	97	99	92	90	83

調査：2013年3月4日

平年：1998年～2012年の15年間の平均

【問い合わせ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>